障を與へなかつたのであります。この場合トラックを工場内に置いておくと爆彈で壞されるといふ心配がありますので、空襲開始と同時に避難するやう準備が出來てをるのであります。

以上のやうな、割合にわれ〳〵として手近に行ひ得るやうな防空の準備によりまして、ともかく四千發の燒夷彈と八發の大型高性能の爆彈を受けても一ケ月經つか經たないうちに元のやうな繁榮を開始したといふことは、確かに準備と努力、そして勇敢に戰つたといふことが言へると思ひます。

次に空襲時にかける資材關係について申すならばドイツ政府の之に對する準備は非常なもので、碍子とか木材――木材などは非常に迅速に配給する。初期の廿機卅機の爆擊の場合なら三日も經てば壞れた家は大抵直つてしまふといふやうな狀態でありました。

敵最近の戰法――三段構へ

これは附けたりと思ひますが、最近の絨毯爆擊の特長といふやうなことについて一寸お話申してみたいと思ひます。日本内地に對しては斯ういつた大爆擊が行はれるかどうか疑問でありますが、將來は行はれると覺悟しなければならないと思ひます。ベルリンまで敵機が襲來するまでには澤山の高射砲陣の關門を通過しなければ來られないのでありますが、それにも拘らずどうして敵機が入つて來たかといふと、最近の航空機は非常に進歩して高射砲だけでは對抗出來ない。最近の敵機は普通一萬メートル程度の高さを飛んでをる。そして侵入して來てから夜間ですとずつと低空に降りる。晝間ですと――私は敵機の姿を見たことがない、高度が高いために機體は見えないが飛行機の曳いてをる白い雲は見えます――それで敵もなかなかいろ〳〵な戰法をとつてをりまして、今まで私の經驗したところではまづ三段構へにやつて來る。初めの編隊がだいたい五、六千メートル、その次のが八千メートル、更にその次のが一萬メートル乃至一萬二千メートルくらゐの所を飛んで來る。それで下の方のに氣を取られてをるとその上のやつが悠々と市内に入つて來る、またいちばん先に速度のはやい飛行機がやつて來る。御承知の通り英國の木造飛行機モスキートなどといふのは六百五十キロぐらゐ出る。昨年の夏あたり夜間によくやつて來た。その速度を速めるために機關銃ひとつ持つてをらないといふのは本當らしいのであります。そいつに向つてこちらの高射砲が盛んに砲擊を集中してをる間に、後から第二陣の編隊が現はれる。夜間戰鬪機の速度は割合にのろいからそれにひ